声援を送り合いながら、元気にプレー！

グラウンドゴルフ親睦交流大会



ホールインワンを狙ってショット！

老人クラブ会員と地域住民の親睦を深めようと、10月29日、カワコふれあい公園で、第17回グラウンドゴルフ親睦交流大会（日野町老人クラブ連合会主催）が開催されました。

当日は秋晴れに恵まれ、参加した皆さんはグループに分かれてプレーを楽しみました。「ナイスショット」「お見事！」といった声が飛び交い、互いに声を掛け合いながら、和やかな雰囲気の中で交流を深めていました。結果は、若林昌文さん（根雨）が優勝しました。おめでとうございます。

長年にわたり地域福祉の向上に尽力

生田公惠さんが厚生労働大臣表彰を受賞



表彰状を手にする生田さん（右）

民生委員として18年間にわたり地域福祉の向上に尽力された生田公惠さんが、厚生労働大臣表彰を受賞され、10月27日、伝達式が行われました。

生田さんは、平成19年12月から令和7年11月まで、長年にわたり地域住民の見守りや相談活動に取り組まれ、日野町民生児童委員協議会の会長も務められるなど、地域福祉の推進に大きく貢献されました。現在も、独居高齢者の見守りや、交通安全指導員として活動を続けられています。

18年間にわたる地域への温かいご尽力に、心から敬意を表します。

森林を守り、未来へつなぐ

「ミヨシ産業鵜の池共生の森」で森林保全活動



豊かな森林を守るため、汗を流す参加者

10月3日、鵜の池湖畔にある「ミヨシ産業鵜の池共生の森」で森林保全活動が行われ、株式会社ミヨシ産業（米子市）の社員ら約30人が参加しました。

この活動は、令和5年9月に町と同社が締結した5年間の「とっとり共生の森」森林保全・管理協定に基づくもので、鵜の池湖畔の約1・83ヘクタールの森林を対象に、植樹や下刈りなどの森林保全活動を行っています。令和5年度から始まり、今回で4回目の開催となりました。当日は、サルスベリやクヌギの植樹、薪割りなどを体験しました。

集落支援員だより



KATAGIRI KEI
片桐 圭
担当地区：
高尾・後谷・金持



後谷の棚田では、昔ながらの「はで干し」を続けています。もち米、コシヒカリと期間をずらしながら稲刈りとはでかけをしていきます。今年は日野高校から高校生を呼んで田植え、稲刈りのイベントも開催しました。こなしをした後の稲わらをいただいて金持神社のしめ縄作りに使っています。私もお手伝いし、勉強させて頂きました。



国際バカロレア（IB）ってどんな教育？

日野町では、国際バカロレア（IB）の教育理念を学校教育の充実に積極的に生かしていきます。



国際バカロレア（IB:International Baccalaureate）は、国際バカロレア機構が提供する国際的な教育プログラムです。

知識や技能を身に付けるだけでなく、自ら考え、他者と学び合い、異なる文化や価値観を尊重しながら、よりよい社会の実現に貢献する人を育てることを目指しています。

IB の使命

IB は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としています。この目的のため、IB は、学校や政府、国際機関と協力しながら、チャレンジに満ちた国際教育プログラムと厳格な評価の仕組みの開発に取り組んでいます。

IB のプログラムは、世界各地で学ぶ児童生徒に、人がもつ違いを違いとして理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあり得ると認めることのできる人として、積極的に、そして共感する心をもって生涯にわたって学び続けるよう働きかけています。



IB の学習者像

①探究する人　②知識のある人　③考える人
④コミュニケーションができる人　⑤信念をもつ人　⑥心を開く人
⑦思いやりのある人　⑧挑戦する人　⑨バランスのとれた人　⑩振り返りができる人

PYP と MYP

IB には、子どもの発達段階に応じた 4 つのプログラムがあります。
日野町では、そのうち PYP と MYP について検討しています。

PYP（初等教育プログラム）	MYP（中等教育プログラム）
教科の枠をこえたテーマを通して、探究する学び 子どもの好奇心や問いを大切にしながら、教科の枠をこえたテーマで学びます。身近な生活や社会、自然などとのつながりを考え、理解を深めていくプログラムです。	**８つの教科グループで、探究を基盤とした学び** 各教科において探究を基盤とした学びを進め、知識や技能を身に付けながら、概念的な理解を深めます。また、学んだことと実社会とのつながりを考えるプログラムです。

日野町が目指す教育と IB

子どもたちには、ふるさとへの愛着と広い視野を持ち、地域の課題にも目を向け、自分自身や社会の未来を考え、行動できる人に育ってほしいと考えています。そのため、IB の教育理念を学校教育の充実に積極的に生かしていきます。一方、IB 認定校を目指すかどうかについては、教育的効果や学校の体制、経費などを十分に調査・検討したうえで判断します。